小学校と連携して学びを深め、家庭・地域と共に成長し、未来に向かってたくましく生き抜く生徒を育成する　　**豊田市立稲武中学校**

１　実践のねらい

⑴　学校間の連携

自然豊かな山間に位置する本校は、学年一学級ずつの小規模校であり、全校生徒が５３名しかいない。生徒は幼少の頃より１０年ほども同じ集団で生育し、へき地であるため他地域の子どもや集団と接することが少ないまま卒業を迎える傾向にある。よって、将来に向け、上級学校や就職先で他と積極的に関わり、たくましく生きていく力を育む教育活動が不可欠となる。

そのため、中学三年間の営みだけではなく、もっと長い時間をかけ、より多くの指導者が手を携えて教育にあたる必要があると考えた。そこで、本校と小学校とが連携し、９年間を通して学区の児童・生徒を共に教育しようと試みた。さらに、市内の他の小規模校と合同で行事を開催して、より多くの人々と協働する機会を設けた。

⑵　地域との連携

地域全体も過疎化が進んでおり、生徒の故郷に対する愛着が薄れ、地域の活力が低下していく心配もある。稲武には、豊かな自然がたくさんあり、温かい人々がいる。

そこで、本校は各授業や行事において、地域の「人と物」のすばらしさを存分に生かして、感動ある幾多の体験を通した学びに力を注いでいる。また、学びを地域へ発信する総合的な学習を構築し、地域の人々と連携して創意ある活動を展開するよう工夫している。こうした活動は、生徒の人間性を高めると共に、生徒の社会性を育み、さらに地域の活性化にもつながると考えた。

２　実践の内容

⑴　学校同士の連携

ア　９年間で育てる

本年度より稲武小学校との小中連携教育の研究を開始した。両校合同による授業研究を柱に、連携して児童生徒の教育にあたり、９年間で「共育」するという学校運営のあり方を研究中である。本年度は、小中合同による授業研究会を２４回もち、互いの授業力の向上を図るとともに、授業構想における共通のテーマや手立てを追究し合った。授業や各指導における共通理解が図られ、教師の指導力が向上し、連携の手立てが具現化し始めている。

小中合同での授業研究会

イ　他の中学校と協働して育てる

市内４つの小規模の中学校が集い、合同での合唱コンクールを開催している。合唱の出来を競い合うだけでなく、生徒会を中心に学校紹介の記事を交換し、当日に交流会を織り交ぜて、学校間の交流の輪を広げる場にもしている。芸術の魅力を通して、他校の中学生との連携や絆を深められる本行事は、教育的意義の高い取組である。

⑵　家庭・地域との連携

ア　地域から学ぶ（地域教育懇談会）

技術科・美術科の授業で、地域の間伐材である丸太をくり抜いたランプシェードを毎年制作している。地域講師の指導の下、生徒が数か月かけて彫り上げた作品は、その後地域の公共施設や店舗を色鮮やかに飾り、訪れた地域の方々の心を癒すインテリアとなる。地域からの学びが地域の活動に貢献するという、地域と一体となった学習となっている。

母と子が肩を寄せ合い木工細工

また、地域教育懇談会において、地域の方々と生徒が、「稲武のよいところ」を共に語り合う場を設けた。自然豊かな山村を愛し、稲武に居住する大人と、未来の稲武を背負う生徒とが、わが故郷の魅力について思いを交換し合い、地域を大切にしようとする気持ちがさらに高まった。

イ　家族で学ぶ

ＰＴＡ活動の一環として、親子で触れ合う機会をもつために「親子ふれあいクラフト」という活動を実践している。昨年はキッズワークチェアを製作し、地域の様々な施設へ寄贈し、喜ばれた。今年は校内の教室の室名プレートと、地域各所の玄関に飾る立て看板を製作した。この授業でも、地域の方が伐採した木材を使用し、親子・家庭が一体となって触れ合う学習となっている。

ウ　地域を活性化する

本校では総合的な学習の時間を「全校学習」と位置付け、合唱を地域に届けることで、「地域を活性化しよう」とする活動を行っている。年間を通して繰り返し練習している全校合唱を、道の駅や地域でのイベントの場で披露し、訪れた人々を笑顔にする活動である。

企画・運営は、すべて生徒のアイデアで進め全校一斉の総合的な学習の時間で追究し、準備や練習を繰り返す。「地元イベントへの参加型合唱 Live」として、地域に定着してきている。

３年生の感想には、「先輩方が築き上げてきたこの活動を、中学校生活で最も大切にしてきました。」とある。生徒の手によって作られた歌声や企画は、いまや稲武の地を元気にし活性化する活動にまで発展している。

道の駅での Live

３　実践の成果や課題

⑴　成果

- 小中学校の教職員同士の絆が強く結ばれ、双方の教育方針に一貫性が生まれた。
- 教師の授業力が向上し、授業の構想・手立てに、具体的な共通の認識が宿った。
- 地域との連携がより密接になり、生徒が地域を大切にしようとする意欲が高まった。
- 生徒の学ぶ意欲が向上し、他と関わりながら学びを深めようとする態度が培われた。

⑵　課題

- 小中９年間を通した教育活動のうち、どこまでを一律にそろえるかを模索中である。
- 生徒が生涯にわたって生き抜く力を育むには、小学校・地域との連携教育で何を優先すべきであるかを今後精査していく必要がある。